第6回徳之島ごと
さくらねこTNRプロジェクト

さくらねこ無料不妊手術事業

２０１６年1月24日～27日

申請者：徳之島３町（天城町・伊仙町・徳之島町）

第一回H26/11/15～22	５３７頭
第二回H27/1/25～31	６４１頭
第三回H27/4/16～21	２５１頭
第四回H27/6/14～19	２３３頭
第五回H27/11/5～9	３１４頭
第五回H28/1/24～27	１６０頭
合計	２,１３６頭

公益財団法人
どうぶつ基金
www.doubutukikin.or.jp
どうぶつ基金 検索
659-0004 兵庫県芦屋市奥池南町71-7 0797-57-1215 info@doubutukikin.or.jp

はじめに

公益財団法人どうぶつ基金では鹿児島県奄美群島の世界自然遺産登録への取り組みとして、行政と協働して、猫の捕食によるアマミノクロウサギ絶滅の保護措置のために徳之島に生息する全ての猫（推定３０００頭）に、さくらねこＴＮＲ無料不妊手術を行うことになった。 徳之島は国の特別天然記念物アマミノクロウサギの生息地である。現在、国定公園に指定されていますが近く国立公園に指定される見込みで、２年後までに世界自然遺産登録を目指している。しかし、その根拠であるアマミノクロウサギは徳之島にわずか２００羽といわれており環境省レッドリストの絶滅危惧IB類（絶滅危機）に指定されている。

アマミノクロウサギと猫

環境省がアマミノクロウサギの幼獣の生息状況等をモニタリングするために実施しているセンサーカメラによる自動撮影調査において、ノネコがアマミノクロウサギの幼獣を捕食している場面が撮影された。 不妊手術を施さないなどといった不適正な飼養や遺棄により、野生化した犬やねこの一部は繁殖し、野生生物を捕食するようになり、今回のような重大な事態をもたらす結果となってしまった。

徳之島ごとさくらねこＴＮＲを行う理由

３０００匹の島の猫すべてに不妊手術を施しさくらねこにすることで、管理された猫と人とアマミノクロウサギが共存する島となり、結果、アマミノクロウサギなどの希少動物を守ることにつながり、徳之島は世界一自然に生き物に優しい島となる。

写真：ノラ猫にくわえられたアマミノクロウサギ（写真提供：環境省奄美自然保護官事務所）

スケジュール

１月２５日（月）	
１４：００	手術会場設営
１４：３０	手術開始
１８：００	手術終了
１８：３０	撤収完了・終礼

１月２６日（火）	
８：１０	朝礼
８：２５	手術開始
１２：００	昼食
１３：００	手術再開
１８：００	手術終了
１８：３０	撤収完了・終礼

１月２７日（水）	
９：００	会場片付け
１０：００	終礼

記録的大寒波の影響

奄美大島に１１５年ぶりの雪を観測した記録的大寒波の影響を受け、２４日（日）は飛行機が欠航となった。翌日の昼の便からフライトが再開されたため、２５日（月）の１３時頃どうぶつ基金スタッフと獣医師が徳之島空港に到着し、手術会場に直行し手術を実施した。天災によるスケジュール変更はあったが、現場に準備が整っていたこともあり、無事捕獲されている全頭の手術を終えることができた。

協働人員数（手術日）

	伊仙町	天城町	徳之島町	どうぶつ基金	合計
1月25日	10	10	6	5	31
1月26日	10	10	6	5	31
延べ人数	20	20	12	10	62

使用捕獲器数

捕獲器所有者	使用台数
どうぶつ基金	２１２
合計	**２１２**

手術会場及び猫保管場

手術会場　：　伊仙町　旧民俗資料館

猫の保管　：　伊仙町　旧民俗資料館

手術会場の
外観

手術が終わった
猫の保護場所。
寒さ対策にストーブが置かれた。

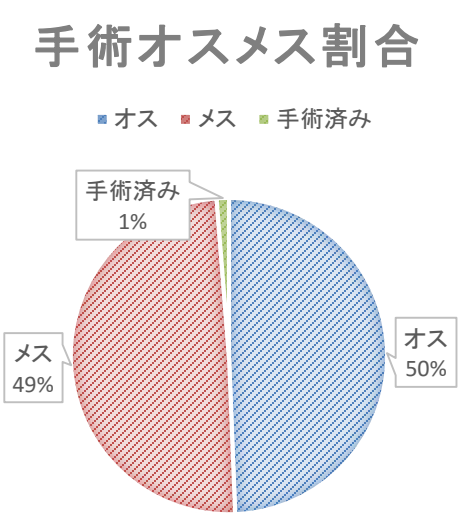
手術集計

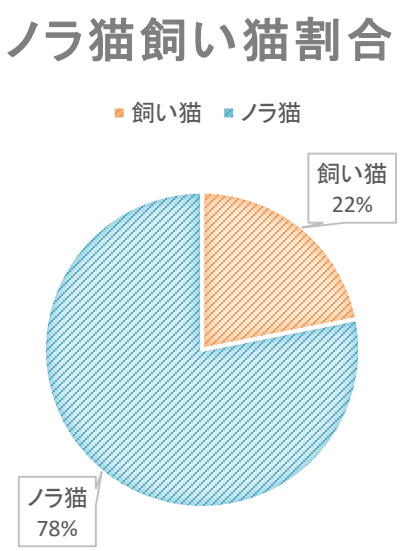
TNR数

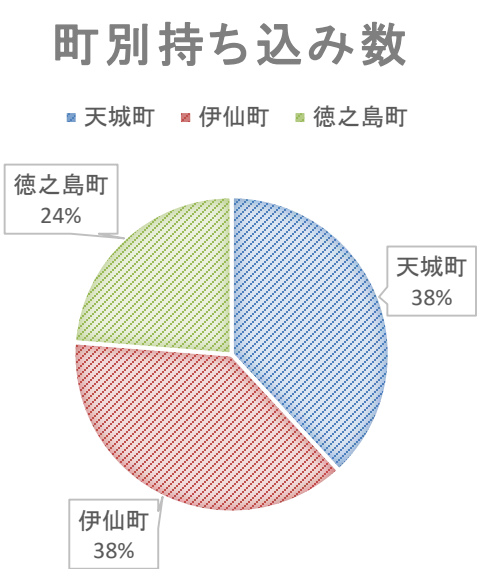
	オス	メス	耳カットのみ	耳カット済み	計
1月25日	17	23	0	0	40
1月26日	62	56	2	0	120
合計	79	79	2	0	160

町別猫持ち込み数

	飼い猫	ノラ猫	計
天城町	14	47	61
伊仙町	15	46	61
徳之島町	6	32	38
計	35	125	160







その他治療

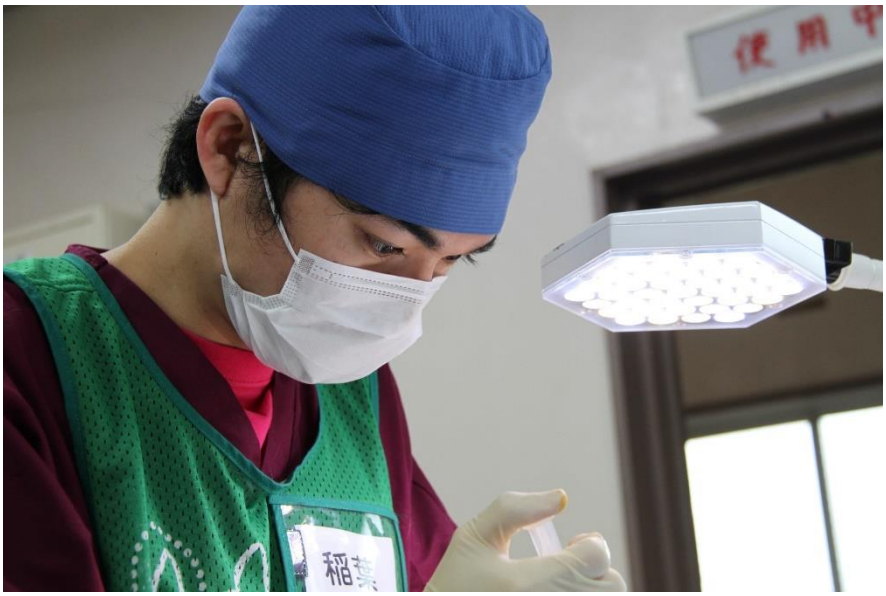
全頭に実施
ノミ・ダニ・回虫の駆除（レボリューション）、ワクチン、点眼、補液５０ｃｃ

特別治療
水腎症手術　　1頭

水腎症の猫の手術の様子。朝から110頭の不妊手術を終えたところで、お腹が異常に肥大したメス猫が運ばれてきた。 開腹してみると、通常直径3cmほどの腎臓が、野球ボール大に肥大していた。
摘出しなければ、死に至る病気であった。

執 刀 医

山口武雄獣医師長
（どうぶつ基金顧問 ）



稲葉獣医師

手術会場の様子

朝礼の様子
毎朝８時５０分から手術前に
全員で朝礼を行う。

猫の搬入
各町で捕獲された猫が運びこ
まれてくる。

手術会場の様子
手前で毛刈りやワクチン接種
をおこない、中テーブルで手術
をし、奥のテーブルで補液や
目薬など術後ケアを行っている。

手術会場の様子

手術準備
会場に搬入された猫に、
安定剤、麻酔、抗生剤、ワクチン
を注射していく。

耳カット毛刈り・ノミ駆除
手術する前に、毛刈り、
みみ先カット（さくら耳）と
ノミ・ダニ・回虫の駆除
（レボリューション）を実施。

さくら耳
不妊手術済みの印に、ノラ猫も
飼い猫もみみ先カット（さくら
みみ）をおこなう。

手術会場の様子

不妊去勢手術

手術跡
メスの不妊手術跡。
直径約1cm

術後ケア
手術が終わった猫には、補液、目薬、耳掃除を実施。

手術会場の様子

ケージの洗浄
猫が手術を受けている間にケージを洗浄して、猫を受け入れる準備を整える。水の高圧洗浄機を活用して、シルバー人材の皆さんがおこなった。

安静
手術が終わった猫は洗浄されたケージに戻し、保護場所に運ぶ。一晩安静にし、翌日リターンする。

ストーブ
記録的な大寒波の影響で気温が低かったため、猫の体温維持を目的に、保護部屋にストーブが置かれた。

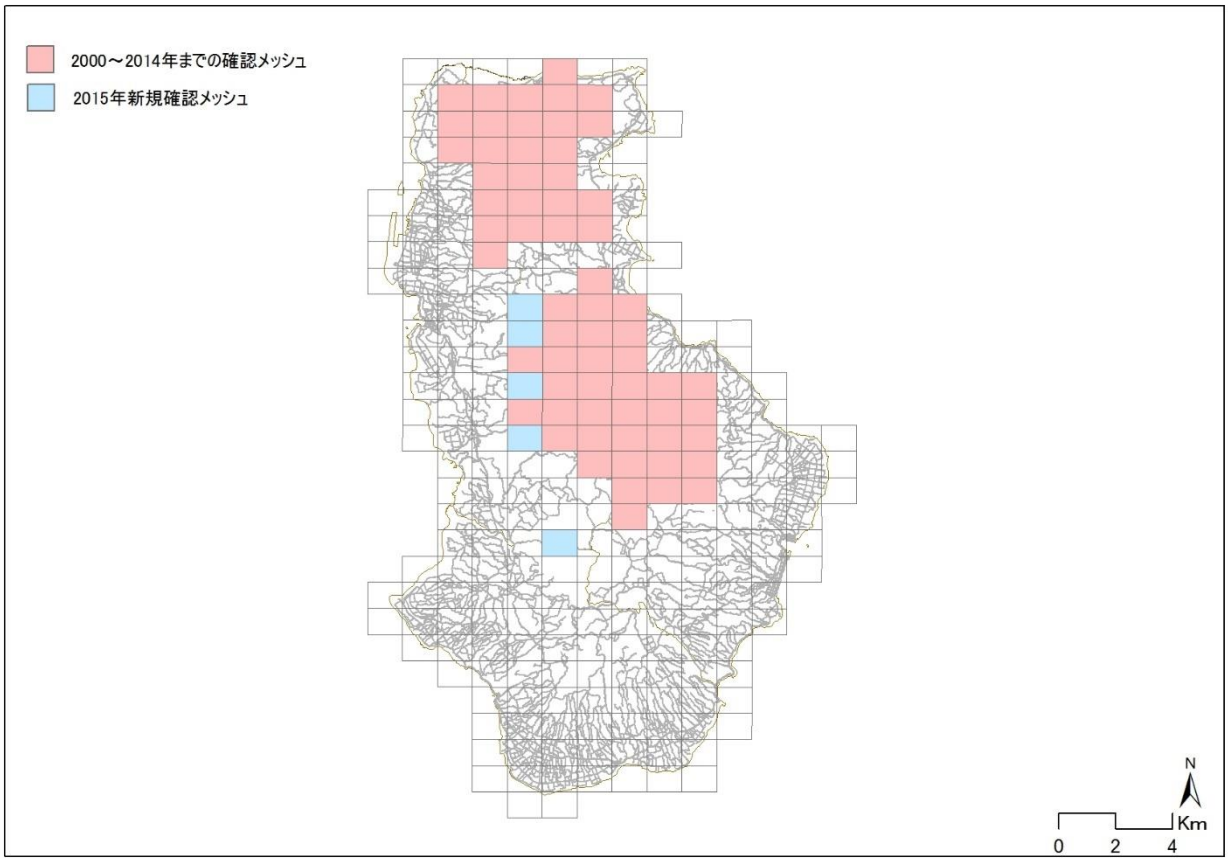
徳之島猫による捕食被害１羽に

３町報告書から

どうぶつ基金では、平成26年11月から27年1月までの1年2ヶ月で、2,136頭の徳之島の猫に不妊手術を、３町と協働で実施した。その結果、2014年にはイヌまたはネコにより捕食されたと思われるアマミノクロウサギは9羽発見されたが、2015年は1羽のみ激減したとの報告を受けた。また、新規に５つのエリアで、アマミノクロウサギが確認された。

徳之島でのアマミノクロウサギ確認状況

年度	生息確認頭数	猫により捕食された頭数
2014年	おおよそ２００羽	9件
2015年	おおよそ２００羽	1件



情報提供：環境省徳之島自然保護官事務所

徳之島ごとさくらねこTNR事業実績

町別手術頭数

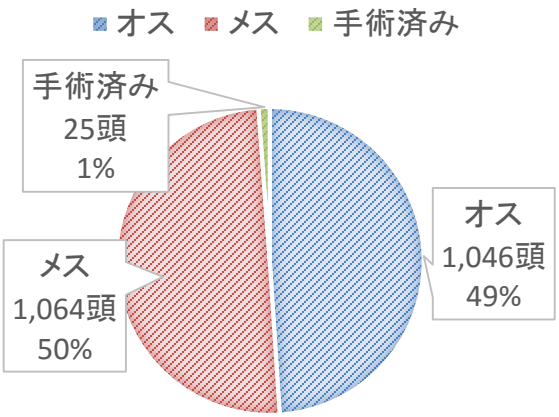
		実施期間	飼い猫	ノラ猫	計
天城町	第1回	H26.11.17～21	85	50	135
	第2回	H27.1.26～30	48	331	379
	第3回	H27.4.17～20	8	79	87
	第4回	H27.6.15～18	23	97	120
	第5回	H27.11.5～8	7	115	122
	第6回	H28.1.24～1.27	14	47	61
	計		185	719	904
伊仙町	第1回	H26.11.17～21	70	194	264
	第2回	H27.1.26～30	20	126	146
	第3回	H27.4.17～20	8	45	53
	第4回	H27.6.15～18	11	45	56
	第5回	H27.11.5～8	43	53	96
	第6回	H28.1.24～1.27	15	46	61
	計		167	509	676
徳之島町	第1回	H26.11.17～21	85	53	138
	第2回	H27.1.26～30	23	93	116
	第3回	H27.4.17～20	14	97	111
	第4回	H27.6.15～18	9	48	57
	第5回	H27.11.5～8	27	69	96
	第6回	H28.1.24～1.27	6	32	38
	計		164	392	556
合計	第1回	H26.11.17～21	240	297	537
	第2回	H27.1.26～30	91	550	641
	第3回	H27.4.17～20	30	221	251
	第4回	H27.6.15～18	43	190	233
	第5回	H27.11.5～8	77	237	314
	第6回	H28.1.24～1.27	35	125	160
	計		516	1,620	2,136

徳之島ごとさくらねこTNR事業実績

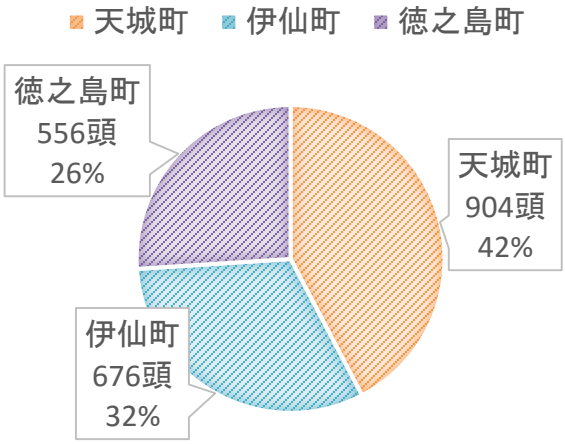
オスメス別手術数

			オス	メス	耳カットのみ	耳カット済み	計
合計	第1回	H26.11.17～21	250	283	4	0	537
	第2回	H27.1.26～30	317	318	6	0	641
	第3回	H26.4.17～20	117	128	1	5	251
	第4回	H26.6.15～18	109	120	1	3	233
	第5回	H27.11.5～8	174	137	2	1	314
	第6回	H28.1.24～1.27	79	79	2	0	160
	計		1,046	1,065	16	9	2,136

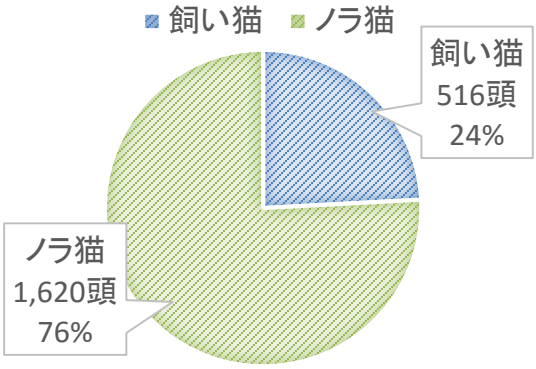
オスメス割合



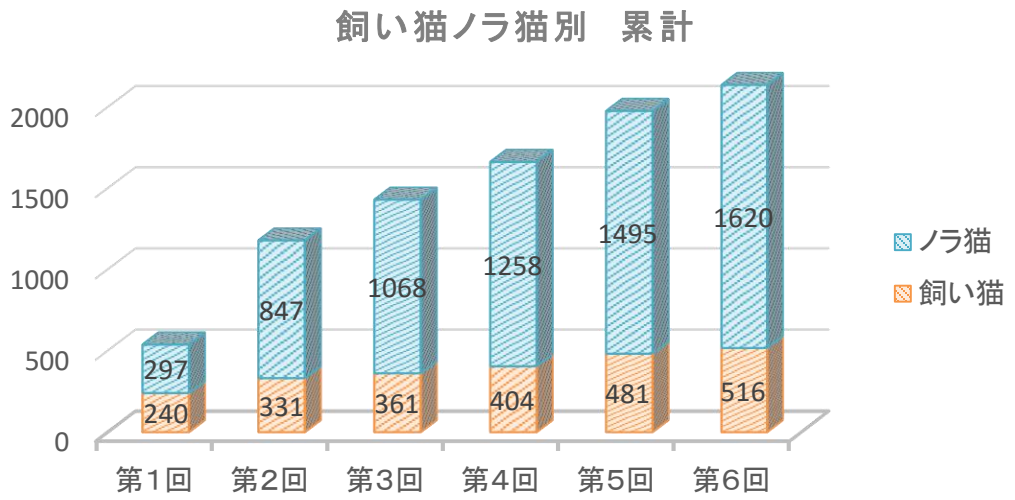
町別手術数



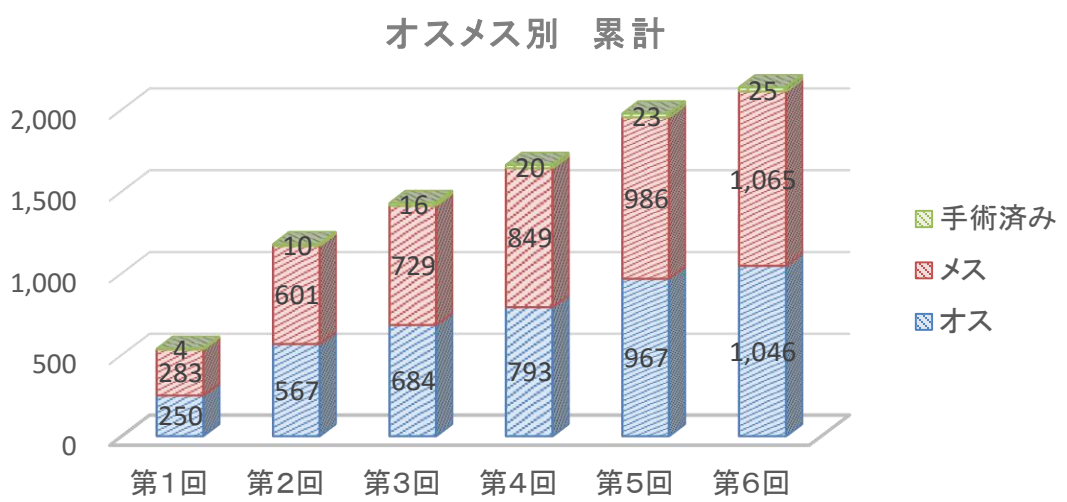
飼い猫・ノラ猫割合



徳之島ごとさくらねこTNR数　累計



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
飼い猫	240	331	361	404	481	516
ノラ猫	297	847	1,068	1,258	1,495	1,620
合計	537	1,178	1,429	1,662	1,976	2,136



	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回
オス	250	567	684	793	967	1,046
メス	283	601	729	849	986	1,065
手術済み	4	10	16	20	23	25
合計	537	1,178	1,429	1,662	1,976	2,136

プロジェクト参加獣医師数

実施期間	委託獣医師	ボランティア参加獣医師※	計
第1回	4	2	6名
第2回	6	2	8名
第3回	4	3	7名
第4回	3	2	5名
第5回	3	0	3名
第6回	2	0	2名
延べ人数	20	9	31名

※ボランティア参加獣医は交通費、宿泊費すべて自己負担

1月27日　奄美新聞

徳之島「さくら耳ねこ」増加

どうぶつ基金 TNR事業「継続が大事」

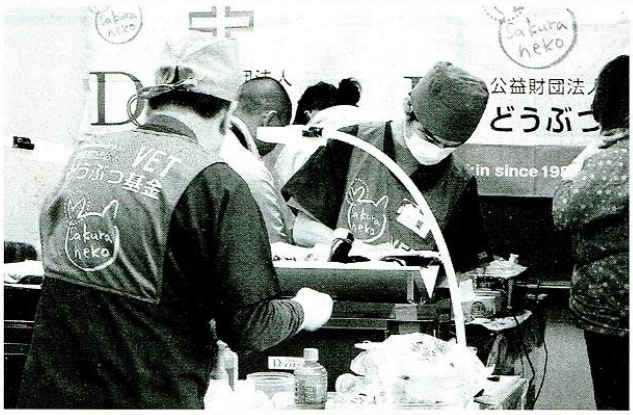
【徳之島】公益財団法人どうぶつ基金（佐上邦久理事長）の「徳之島ごとさくらねこ一斉TNRプロジェクト～世界自然遺産登録を目指して～」（徳之島3町共催）の第6回活動が25日～27日の予定で、伊仙町の旧歴史民俗資料館で行われている。交通の乱れによる日程変更で、今回は野良猫と飼い猫合わせ約160匹限定の施術を予定している。

徳之島に住む全ての猫（推定3千匹）を対象に不妊・去勢手術を実施し、猫を殺さずにアマミノクロウサギなど希少野生動物も守っていくのが目的。1匹当たり3万円余の手術費用は全国からの寄付金（基金）を充てるため無料。野良猫の捕獲・運搬作業などは徳之島、天城、伊仙の3町当局が協働。2014年11月に第1回がスタートして以来昨年11月（第5回）までの施術総数は1976匹となっていた。

今回は、当初計画では24日～26日を予定したが、寒波に交通の乱れで急きょ25日～27日（27日は予備日）に日程変更し、獣医師2人・同基金スタッフ3人の計5人が同島入り。3町職員やボランティアのサポートで25日午後から施術を開始。日程の都合で今回は限定約160匹が対象という。

野良猫の捕獲作業に協力している各町職員によると今回捕獲箱に入った野良猫の半分以上（徳之島、伊仙両町内は約5割、天城町約9割）は不妊・去勢手術済みを示す「さくら耳ねこ」だった。過去5回の一斉TNR事業の効果が顕著に示されつつあるという。

どうぶつ基金の佐上理事長は「十分な成果が表れ始めたと思う。目標は3千匹。猫は繁殖力が強いためここでTNR事業プロジェクトを止めると、5年もすると元の木阿弥になってしまう。間隔を広げてでも継続していくことが大事」。また、通常だと1匹3万円余の個人負担となる飼い猫への無料対応に、「島民みなさんの負担を軽減することは経済効果にもつながる」などと話した。



伊仙町会場で実施の第6回「徳之島ごとさくらねこ一斉TNR」＝26日、同町旧歴民館

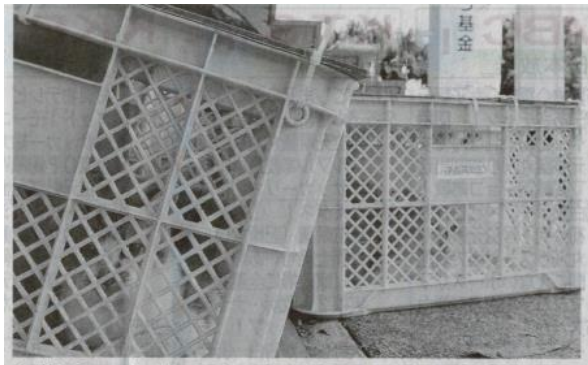
1月27日　南海日日新聞

猫の不妊手術、きょうまで

希少種保護目的、164匹予定

徳之島でどうぶつ基金

【徳之島総局】徳之島3町と公益財団法人どうぶつ基金（兵庫県、佐上邦久理事長）が共同で進める猫の不妊手術事業が25日から、伊仙町の旧歴史民俗資料館で行われている。同基金が派遣した獣医師が27日までの3日間、各町が集落などで捕獲した野良猫と、住民の飼い猫の計164匹の手術を行う予定。



不妊手術のため捕獲された野良猫＝26日、伊仙町

事業は同島に生息するアマミノクロウサギなど希少な生き物が野生化した猫（ノネコ）に襲われる被害の防止につなげようと、2014年11月に始まり6回目。15年度末までに3千匹の施術を当初の目標に掲げていた。

手術費用は同基金が全額を負担。野良猫は施術後、手術済みと分かるように耳の一部に切り込みを入れて元の場所に放す。

事業では15年11月までの5回の実施で、野良猫と飼い猫合わせて1976匹に不妊手術を行った。佐上理事長は「野良猫が少なくなり、島の皆さんは評価してくれていると聞いている」と手応えを述べ、「今やめると野良猫が増えて元に戻る。3町に継続の意思があれば、最後の1匹まで事業を続けたい」と語った。

南海日日新聞

2016年（平成28年）
1月27日（水）
旧暦12月18日・大安
発行所
日本新聞協会加盟
南海日日新聞社
〒894-8601
鹿児島県奄美市名瀬長浜町10番3号
電話 0997局
総合・総務局
53-2121 ファクス 52-2354
編集局
53-2127 ファクス 53-6636
Eメール nankainn@pb.synapse.ne.jp
営業局
53-2126 ファクス 53-6431
Eメール nankai@bronze.ocn.ne.jp
販売部
53-2125 ファクス 53-1475
http://www.nankainn.com/

©南海日日新聞社 2016年

1月1日　奄美新聞

(7)　2016年(平成28年)1月1日　金曜日　奄美新聞　【第3種郵便物認可】

世界自然遺産へ 生物多様性保持

【徳之島】世界自然遺産登録を目指す奄美・琉球地域の生態系上のクライテリア（価値・特徴）を端的に示すと、約200万年前～170万年前（第四紀更新世の初期）に大陸から隔離された固有種・遺存種固有種の多さ、絶滅危惧種など生物多様性にある。登録実現への課題は①保護地域の指定②外来種対策③希少種の保護④地域全体への波及効果⑤普及啓発。とりわけ山林地域に侵入して野生化したノネコの捕食圧からの希少種保護対策は喫緊の課題だ。徳之島では官民が一体となったノネコ・野良ネコの捕獲作戦と、飼いネコも含む「徳之島さくらねこTNRプロジェクト」、地方創生事業にも絡めて副次的効果が期待できる天城町のノネコ一時飼養施設（ネコ舎）運営などの先進的取り組みが注目を集めつつある。

先送りは対策強化の猶予に

奄美地域を含む琉球諸島が世界自然遺産候補地に選定されたのは13年前の2003（平成15）年5月。そして「奄美・琉球」（奄美大島・徳之島・沖縄島北部やんばる地区、西表島）を正式な候補地に決定したのは13年1月だった。今後の新たなスケジュール(目標)は▽16年＝国立公園指定、ユネスコ世界遺産センターへ推薦書の準備作業▽17年＝国立公園指定、ユネスコ世界遺産センターへの推薦書提出▽同年夏＝国際自然保護連合（IUCN）による現地調査▽18年夏以降＝世界遺産委員会の審査（登録の可否決定）―となっている。

奄美・琉球世界自然遺産候補地科学委員会（昨年9月、徳之島町会場）で同目標への1年先送りが示された。一方では「国立公園など保護地域の指定取り組みなどの遅れに加えて、自然遺産登録への諸課題解決のための具体的施策・成果の検証、住民への周知啓発も足りない」「先延ばしは、登録を確実なものにするための"猶予期間"と捉えるべき」との声もある。

世界自然遺産候補地選定で意識され始める13年前まで、徳之島地域では国・県行政を含め森林生態系に絞った保全監視、保護施策などの目立ったアクションはこれといって思い出せない。アマミノクロウサギを頂点とする希少野生生物に加えて1000種以上の顕花植物が生育し、絶滅危惧種の多くが分布する同島。国際的にも生物多様性保全上の重要な地域に選定されながら、希少動植物の盗採防止への監視活動一般廃棄物の不法投棄現場のボランティア清掃活動なども含め、民間主導に頼って動かされてきた感が否めない。

ノネコ排除は喫緊の課題

元環境省自然環境局長、鹿児島大学特任教授の星野一昭氏は講演で、「世界自然遺産はトップダウンで国が保護の主体だが、保全や活用には地域住民の理解と協力が非常に重要になる」。自然遺産登録要件の一つ十分な保護管理には、「前提となる国立公園地域指定とノネコなど悪影響に対する対策が講じられていることも重要」。とりわけノネコ対策は喫緊の課題であることを繰り返し強調していた。

世界自然遺産登録への核心的(コア)ゾーンの中腹をぬう徳之島町林道「山クビリ線」での定点自動撮影画像。撮影日時は2015年10月16日の▽右が午後9時33分▽左は午後10時8分。その差わずか35分のニアミスのようだ(写真・徳之島自然保護協議会提供)

徳之島ネコ対策

官民一体取り組み 先進事例に一転

環境省が徳之島の山林部で行ったノネコ緊急調査捕獲（14年12月～15年3月27日）では、捕獲した16匹のうち2匹の糞の中から、クロウサギをはじめケナガネズミ、トクノシマトゲネズミの3種の毛を検出。特にトゲネズミに関しては1匹のノネコの糞（3回分）から4個体分の痕跡を検出、関係者に衝撃を与えた。15年度からはNPO法人徳之島虹の会（行山武久理事長）に森林部（林道沿い）でのノネコ捕獲事業を委託・協働するなど本格化させている。

ちなみに同省が14年度に実施した森林部のノネコ生息状況調査（自動撮影カメラ画像解析）による推定数は▽徳之島150～200匹▽奄美大島600～1200匹とされる。

徳之島3町は絶滅危惧植物群を中心に盗採を禁じる「希少野生動植物の保護に関する条例」を12年9月議会でそろって制定し、徳之島自然保護協議会（美延睦美会長）も設置された。14年4月には「飼い猫の適正な飼養及び管理に関する条例」も制定したが、飼養の届け出件数は伸び悩んでいるのが現状のようだ。

同省の現地関係者らは特に「ノネコ対策は世界自然遺産登録の観点からも最優先で取り組むべき喫緊の課題」。最も重要なことはクロウサギなど生息地のノネコ捕獲だが、発生源対策を同時進行で進めないと解決には至らないことを訴え、「オール徳之島で住民一人一人が問題意識を持ち、猫の適正な飼育・管理に努めることが重要」と強調してきた。

世界的に特異な性染色体を持つトクノシマトゲネズミの生態研究者の岡山理科大学理学部動物学科講師の城ヶ原貴通氏は、ノネコの糞からトゲネズミ数個体分の毛などが検出されたことに「非常に危機的な状況。ネコは本能的に襲って遊んで殺す事例もある」と警鐘を鳴らす。ネコは生まれて半年経つと3～6匹ずつの子ネコを産み始め"ねずみ算式"に増え続ける。獣医師も「ネコを飼ったら出産制限は必須。ネコは家の中を縄張りに人が管理する動物。適正飼育があってこそ野生動物とネコは共存ができる。ネコは山に捨てはいけない、捨てるのは犯罪です」と訴える。

TNR事業「世界の研究事例に」

徳之島での特徴的な動きに、公益社団法人どうぶつ基金（兵庫県芦屋市、佐上邦久理事長）と3町と連携したネコの無料避妊・去勢手術「徳之島さくらねこTNRプロジェクト事業」と、天城町の既存施設・旧クリーンセンター（天城）を活用した「ノネコの一時飼養施設」（ネコ舎）運営の先進的な取り組みがある。

「TNR」はトラップ（捕獲）・ニューター（避妊手術）、リターン（戻す）の略。3町当局の協力で人里で捕獲した野良ネコや希望する一般住民たちの飼いネコなど全てのネコが対象。やがては森林域に侵入、クロウサギなど絶滅危惧種たちの補食圧となる確率を抑えつつ「野良ネコのノネコ化と殺処分ゼロによる共存」が最大の目的だ。地元獣医師会や連携機関とは水面下で確執を生んでいるのも事実だが、島民にとっては経済的負担（1匹当たり約3万2千円）も考え歓迎する声は強い。

「世界のケーススタディに」。2014年から徳之島で行われているTNR事業

ちなみに14年11月の第1回～15年11月の第5回まで計1976匹（飼い猫481匹、野良ネコ1495匹）を対象に実施した。佐上理事長によると、寄付金で賄い3町に無償提供した獣医療は約5448万円相当と試算。そして「TNRは速攻・徹底・継続が大事。世界自然遺産登録を目指す島で世界中が注目するケーススタディにしたい」と気を吐いた。

地方創生事業 副次効果にも期待 ―天城町

天城町のノネコ一時飼養施設（ネコ舎）は、徳之島・伊仙両町の継続的な運営協力も取り付け15年当初に設置。環境省が捕獲（委託）したノネコ（同年12月末で延べ70匹）を受け入れ、島内の動物病院で避妊去勢手術・ワクチン接種（同省負担）などを実施。町が雇用している専任スタッフたちが大切に個体管理し人に順化させてインターネットや譲渡会で里親を募集。これまで16匹を譲渡している。

県内外でも珍しい天城町の「ネコ舎」運営施策の特徴は、世界自然遺産登録への「喫緊の課題」の解決への具体的アクションと併せて、地方創生事業の「しごと」（雇用）創出によるU・Iターン者の就業者増・定住促進・人口増対策もある。東京都荒川区から昨年7月、同スタッフとして同町にIターンした秋山光さん（29）は「動物専門学校を出て動物病院やペットショップに勤めていたので動物は好き。ネコは室内飼いで山には行かせず、クロウサギなど希少種の命も守ることが大事」。やさしい眼差しで元ノネコたちを観察し続けている。

町は、14年度地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金（地方創生先行型）では既存施設活用事業として300万円。同上乗せ交付分ではノネコ捕獲収容事業として500万円を得て現在、観光客や島民がネコとふれあいを楽しみ里親の出現にも期待を込めた展示施設（木造約25平方㍍）の新設も進めている。

天城町が設置運営している「ノネコ一時飼養施設」（ネコ舎）

漠然とした「住民への啓発、理解と協力が不可欠」など転化的な掛け声だけでは前進できない。官民を挙げた役割分担の明確化と細やかなKPI（重要業績評価指標）検証と反省が伴わなければならない。

「自然遺産の保護に果す地域社会・住民の役割は非常に重要。世界自然遺産を活用してこの地域をいかに豊かにするのかは地域の住民で決める。子や孫が戻ってきても共通の話題ができて、『あの時に世界自然遺産にして良かった』と言える地域づくりを」とは鹿児島大特任教授の星野氏の弁。互いの島々の価値観と直面する課題の一端、全体スケジュールも把握して官民一体で温度差を縮めて欲しい。

（米良重則）

さくらねこ無料不妊手術事業
第６回徳之島ごとさくらねこTNRプロジェクト

公益財団法人どうぶつ基金

天城町
伊仙町
徳之島町

NPO法人徳之島虹の会
徳之島ねこ部
徳之島自然保護推進協議会